

防火帯の設置工事について

(再処理施設に関する設計及び工事の計画)

【概要】

○令和2年8月7日及び令和2年10月30日に申請した「再処理施設 廃止措置計画変更認可申請書」(それぞれ、令和2年9月25日及び令和3年1月14日に認可)において示した計画に従い、高放射性廃液貯蔵場(HAW)、ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟及び第二付属排気筒を外部からの衝撃(森林火災)による損傷から防護するため、防火帯を設置することから、本工事の概要について示す。

令和3年4月5日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

防火帯設置工事の概要

1. 概要

令和2年8月7日に申請した「再処理施設 廃止措置計画変更認可申請書」（令和2年9月25日認可）の別添6-1-4-8「高放射性廃液貯蔵場（HAW）及びガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術開発棟の森林火災影響評価に関する説明書」及び令和2年10月30日に申請した「再処理施設 廃止措置計画変更認可申請書」（令和3年1月14日認可）の別紙6-1-4-8-6-2「防火帯の詳細と防火帯内の施設の防火について」において示した計画に従い、防火帯を設置する。

2. 設計

2.1 設計条件

防火帯とは、防護対象設備への外部火災の延焼被害を食い止めるために防護対象設備を囲むように設けられる、可燃物のない帯状の区域であり、想定される自然現象（地震及び津波を除く。）のうち、森林火災の防護対象施設への延焼防止のために設置する。

防護対象施設は、高放射性廃液貯蔵場（HAW）、ガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術開発棟、第二付属排気筒とする。また、高放射性廃液貯蔵場（HAW）及びガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術開発棟における高放射性廃液の蒸発乾固の発生を防止するため、必要な事故対処設備を防火帯の内側に配備する。

2.2 設計仕様

防火帯を設定する位置を図-1に示す。防火帯は、防火帯上に可燃物が無く、防護対象施設を取り囲むように帯状に設定する。また、防火帯外縁から外側の植生状況に応じて必要防火帯幅を確保するとともに、防護対象施設と防火帯外縁までの距離が危険距離以上となるように離隔距離を確保する。

a. 防火帯は防護する建家周囲を切れ目なく囲む帯状の区域とすること。

b. 以下の必要防火帯幅以上を確保すること。

・風上（防火帯外縁方向）に樹木がある場合 : 21 m
（防火帯の南側及び南西隅部）

・風上（防火帯外縁方向）に樹木がない場合 : 9 m
（上記以外）

c. 高放射性廃液貯蔵場（HAW）及びガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術開発棟の外壁と防火帯外縁の距離は、以下の危険距離（防護する建家外壁と火災の離隔距離として最低限必要な距離）以上を確保すること。

高放射性廃液貯蔵場（HAW）	： 14 m
ガラス固化技術開発施設（TVF） ガラス固化技術開発棟	： 13 m
第二付属排気筒	： 19 m

3. 工事の方法

工事のフローを図-2 に、工事の工程を表-1 に示す。工事の工程については、防火帯の設置工事範囲に事故対処設備配備場所地盤補強工事及び津波漂流物防護柵の設置工事が含まれるため、これらの工事の完了に合わせて令和 5 年 3 月までに実施する。

3.1 工事の方法及び手順

既設の舗装道路を防火帯として設定する。防火帯とする道路上及び近傍に街路樹等がある場合は伐採する。舗装の範囲が必要な防火帯幅に満たない箇所においては、道路周辺の未舗装箇所にモルタル吹付又はアスファルト舗装を行い、草木の育成を防止してメンテナンスフリーとする。防火帯予定範囲に存在する既設の可燃物（屋外タンク貯蔵所 1 基、自転車置場、喫煙所）は撤去する。

上記の様に設定した防火帯が識別可能なように、防火帯上に標識の設置又はマーキングを行う。

3.2 検査

(1) 外観検査

- ・防火帯が、防護対象施設を取り囲むように帯状に設定されていることを確認する。
- ・防火帯として区画され標識されていることを確認する。
- ・防火帯上には可燃物が無いこと、アスファルト舗装やモルタル吹付により不燃帯化されていることを確認する。

(2) 寸法検査

- ・防火帯幅が必要防火帯幅以上確保されていることを確認する。
- ・防護対象施設から防火帯外縁までの最短距離がそれぞれの施設における危険距離を上回っていることを確認する。



図-1 防火帯の位置

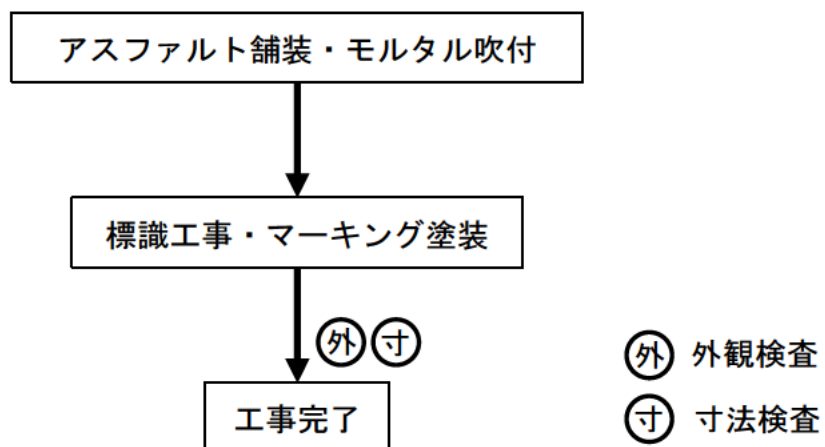


図-2 防火帯の設置に係る工事フロー

表-1 防火帯の設置に係る工事工程表

	令和4年度												備考	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
防火帯 設置 工事														
	工 事 (※)													

※ 工事工程は他の安全対策工事との調整に基づき変更する可能性がある。